

LIBRARY



第85号

茨城県立神栖高等学校 図書委員会

平成29年3月22日発行

「本との出会い」

松本修『全国アホ・バカ分布考』 はるかなる言葉の旅路

二D副担任 鳥羽田 由佳

東京の人は「バカ」と言い、大阪の人は「アホ」と言う。ではその境界線はどこにあるのか。これは一九八八年三月に始まった朝日放送のテレビ番組『探偵！ ナイトスクープ』に寄せられた、視聴者からの素朴な疑問である。『探偵！ ナイトスクープ』は、視聴者からの依頼に基づき、「この世のあらゆる謎や疑問を徹底的に究明する」という娯楽番組である。そこに送られてきた「アホとバカの境界線の調査依頼」が発端となり、境界線はおろか、全国のアホ・バカ表現の分布調査という壮大な試みに発展する。この本は、『探偵！ ナイトスクープ』のプロデューサーである松本修氏が、「全国アホ・バカ方言分布」の謎をさぐる、のべ三年にわたる調査と研究の過程をまとめたものである。

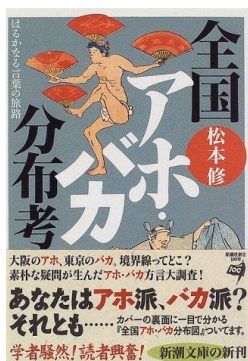
まず、この研究を行ったのがテレビ番組の一プロデューサーであり、言語学の素人であるということに驚く。数々の文献を調査していく道筋や過程

は、とても素人とは思えない。筆者が番組のプロデューサーだからであろうか、文章は非常にテンポがよい。まるで映像を見ているかのようで、流れるように文章が展開されていくため非常に読みやすく感じる。テレビの企画だからこそなした研究であるかもしれないが、先行の学説を覆すほどの緻密な調査は感心せざるを得ない。特に琉球語でバカを意味することばである「フリムン」の語源が、狂人を意味する「触れ者」ではなくぼんやり者を意味する「惚れ者」であると証明した点は、筆者の執念を感じた。そこには自説を証明することへの揺るぎない意志と、日本語に対するあたたかな視線が垣間見えたように思う。

語源をたどることに対し魅力を感じたと同時に、語源をたどるということがどれほど大変なことであるかを思い知らされた。個人的には、ここ茨城でバカを意味する方言である「ゴジャ」が、中国・四国地方各地でも用いられているということには驚くとともに、

このことばも京都が発信源である
と知り、遠く離れていても日本全体が「ことばの輪」でつながっている感覚が得られた。

この本との出会いは大学一年の夏。私はこれをきっかけに日本語学のおもしろさを知り、「ことば」を学ぶおもしろさに出会った。



◎アホ・バカ分布図

一九九一年（平成三年）に朝日放送のバラエティ番組『探偵！ ナイトスクープ』の企画の一つとして放送された、日本列島上における日本語の「アホとバカの境界線」を探る企画。

◎松本 修（まつもと おさむ）

「探偵！ ナイトスクープ」を企画から立ち上げ、最高視聴率三二・二パーセント（ビデオリサーチ調べ）を記録する超人気番組のプロデューサー。

入選作品

俳句コンクール

○校長賞

親父をねこえられたのは背丈だけ 三年C組 大石 鷹人

〈校長コメント〉

男子が成長する過程で、父親に抱く感情は、尊敬に始まり、年老いていくに従い慈愛へと変わっていく。その途中には複雑とも言える愛憎もあるが……。子どもの頃は腕相撲でも、駆け足でも、ゲームでも、知力・体力とも父親に勝てるものは何一つなく、尊敬の対象である。それがいつの間にか父も衰え、そのうち体力では父を超える。そこには嬉しさもあり、悲しさもある。

○教頭賞

JKのブランドせおって いざ学校

二年A組 宮本 美奈子

〈教頭コメント〉

今思うとはずかしいような思い出も含めて、何をして楽しかったのが高校時代だったと思います。「今しかない時代」を、真剣に生きようとする決意を感じます。

少しでも ほめてほしくて 浴衣着た

二年C組 伊藤 未唯奈

〈教頭コメント〉

あの頃、この句のような気持ちがわかっていたら、違った人生を歩いていたかもしれない。「自分のために」を理解できる心はとても大切だと思います。

外みると キラキラ輝く 野球場

一年B組 古徳 遥那

〈教頭コメント〉

授業中にただ何となく、グラウンドをながめていた自分を思い出しました。教室、ベランダから見るグラウンド・野球場は確かに輝いていました。輝くグラウンドには……。

今年の俳句コンクール受賞作品が決定しました。
今年も力作揃いです。



※歴代入賞作品

《校長賞》

カーナビに 振りまわされる 家族旅行
気がつくと 親より一緒に いる担任
雪の下 明日を待ってる ふきのとう
ユニフォーム 戻れぬ夏の 匂いする
卒業式 今日で最後の 通学路
体育祭 紅葉のように 燃え上がる
川の上 泳ぐ紅葉は 流れ星

《教頭賞》

初恋の あなたと帰る 別れ道
夜の海 水面に映る 無限の希望
街角に 実る鬼灯 秋迎え
テスト前 一気に覚えて いざ挑む
待ちきれず 落ち葉をあさり 芋探す
卒業式 今日で最後の 門通る
セミが鳴く つまらん夏に 俺が泣く
キラキラと 田んぼに映る 夏の空
卒業式 別れの言葉 告げれずに
家の中 年中無休の 親父ギャグ
打ち上がる 君と僕との 恋火花
恋きたり 心の桜 咲きほこる
勝利へと 近づく為の 冬の糧

図書委員研修会に参加して

実施日 平成二十八年十二月十五日
会場 ワークプラザ勝田

図書委員の研修を終えて

— A 神地 優香

今回の研修では、各分科会ごとの活動があり、私は「popづくり」に参加しました。初対面の人との交流なので、とても緊張をしました。でも、だんだん打ちとけることができ、会話も弾み、それぞれの個性あふれる作品を作ることができました。

午後の研修では、「ビブリオバトル」に参加しました。これはまず本の紹介を五分間します。そして、読みたくなった本（「チャンネル」）を投票して決定するというスポーツのような書評会です。持参した本について語る他校生の発表を聞いて、本に対する熱い思いが伝わり、私もその本を読んでみたいと思いました。

貴重な体験もでき、今まで知らなかったことも学べました。とても楽しい時間で言葉では表現できないほど本当に楽しい時間でした。

研修会を振り返って

— C 山本 有衣実

十二月十五日の生徒図書委員中央研修会に参加しました。

午前の部では、読書感想文入賞者の表彰式及び発表が行われました。入賞者の発表を聞いて、読書の素晴らしさを改めて実感しました。

午後の部では「絵本の読み聞かせ」に参加しました。本を持ちながらの読み聞かせはとても大変で、難しいのですが、新鮮な体験をすることができました。

こういった研修会への参加ははじめてでしたが、また参加してみたいと思いました。

◎おすすめの本◎

『少女は卒業しない』

朝井リョウ

少女七人が迎える、「別れ」を、瑞々しく繊細に描く。切なくも力強いメッセージが光る話。

『晩夏のプレイボール』

あやのあつこ

野球を愛する者、それぞれの夏の甲子園を描く十の傑作短編。



「座右の書」

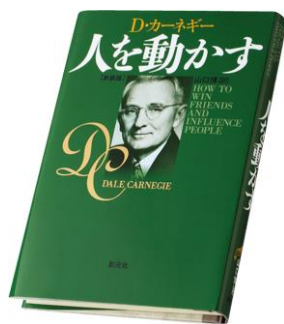
トップアスリートたちの知られざる

長谷部 誠

『人を動かす』

デール・カーネギー著

人間関係の本質に迫る本書は、一九三六年の発売以来、世界一五〇〇部を突破する超ロングセラーとなっている。



松井 秀喜

『五輪書』

宮本 武蔵著

勝つためには何が理にかなうかを説いた本。



アスリートたちの「教科書」となった本

本田 圭佑

『自助論』

サミュエル・スマイルズ著

欧米で成功した三〇〇人以上の評伝を集めた「自分を助けることができるのは自分だけ」というスマイルズの主張が、特にお気に入り。



五郎丸 歩

『日常の小さなイライラから解放される「箱」の法則』

アービンジャー・インスティテューション著

イライラや憤りに振りまわされる日々から決別し、心穏やかな日々を手に入れるヒントがココにある。



『錦織圭 マイケル・チャンに学んだ勝者の思考』

児玉 光雄著

児玉 光雄著

錦織圭

マイケル・チャンに学んだ勝者の思考

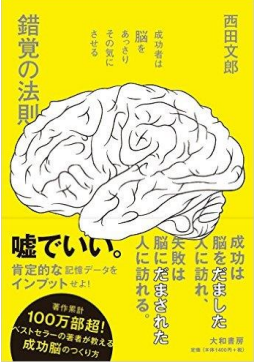
世界ランク5位!
その強さの秘密を元全日本プレーヤーのスポーツ心理学者が解き明かす

意識を変えれば人は劇的に成長できる

チャンは錦織の意識を変えた。考え方を換えれば人は短期間に成果を残せる。意識革命で人は劇的に成長できる。スポーツ心理学者が解き明かすメンタルと技術の向上の秘密。

『錯覚の法』

西田 文郎著



脳が「正しい」と思うことの九九％は錯覚。脳のクセを逆手に取れば、人生は好転する。本書は「言葉」「イメージ」「ボディランゲージ」の三つで、脳を操り、脳を上手に錯覚させ、人生を激変させる具体的な方法を伝授する。

『一生の仕事が見つかる ティズニーの教え』

大住 力著



ディズニールランドを辞め、難病の子どもとその家族を救う事業を始めた著者。夢を見つけた人に伝えたいヒントがつまった一冊。

『イヤな気持ちは3秒で消せる!』

西田 一見著



「イライラする」「どうしよう」「イヤな気持ちに振り回されてはいないか。感情コントロールに役立つ様々な実践ワークが紹介されている。」

印象的なフレーズや、自分が何を感じたかなどをノートに書き込んで、常に意識しよう。

『夢を実現する』ために



を通して自分を磨こう



「教えてあげたい、育ててあげたい」と相手から思われ、かわいがられる人には、「教えられ力」が備わっている。「教えられ上手」な人になる方法を身につけましょう。



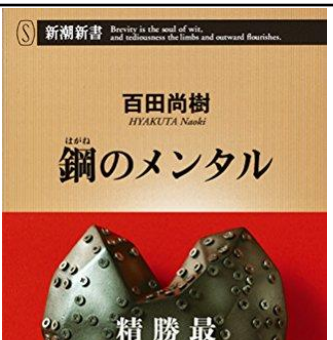
仕事で「できる人」と「できない人」の特徴をもとに「頭がいい人」の仕事のやり方を紹介。できる人のまねをするというのは、能力向上の基本です。



コミュニケーションに必要なのは、「伝える」努力ではなく実は「伝わる」ための努力。心理学を使ってうまくいくテクニックを紹介している。



難しいことは一切抜き。「自己肯定感」を育て、「振り返る力」を高めることで、さまざまな習慣を無理なく定着させる方法、「できたことノート」を紹介。



考え方ひとつで、誰でも「精神の強さ」は鍛えられる。他人の目が気になってしかたがない、悪口に落ち込む。そんな悩みを抱える人は多いはず。本書には超実践的メンタルコントロール術が記載されている。



「目標」「なりたい自分」の存在は、生きる力にスイッチを入れます。「なぜ、目標が達成できないのか?」そんな悩みを持つすべての人へ贈ります。



何をやっても周りから評価される人には『成功のルール』がある。大抜擢される人だけがいつもやっていること。人の喜ぶことをして、人の嫌がることをしない人になる!好感度がゲンと上がる38のコツ。



“成功者はメモをとっている”。1日5分思いついた夢のかけらをメモに書き込むだけで、あなたの潜在意識の扉が開く。「究極のメモ活用術」。気楽に実践できます。